



キノドー水和剤80

農林水産省登録 第14359号

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数	
なし	黒星病	1400~2000倍	200~700ℓ/10a	収穫21日前まで	9回以内	散布	12回以内(塗布は3回以内、散布は9回以内)	
	黒斑病							
かき	炭疽病	1000~1400倍		収穫14日前まで	5回以内		8回以内(塗布は3回以内、散布は5回以内)	
	落葉病	1000倍						
みかん	黒点病	800~1000倍		収穫30日前まで			3回以内	5回以内
	灰色かび病	800倍						
かんきつ (みかんを除く)	黒点病	800~1000倍			800倍		3回以内	3回以内
	灰色かび病 幹腐病							
ぶどう	黒とう病	1200~1600倍		100~300ℓ/10a	収穫45日前まで		4回以内 (開花後は1回)	7回以内(塗布は3回以内、散布は4回以内(但し、開花後は1回以内))
	べと病	1200倍						
はくさい	軟腐病	1200~1600倍	収穫30日前まで	5回以内	5回以内			
レタス	腐敗病		収穫21日前まで					
食用ゆり	鱗茎さび症	50倍	—	植付前	1回	球根瞬間浸漬	1回	
麦類 (小麦を除く)	雪腐病	400~800倍	100~200ℓ/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内	
小麦	眼紋病	400倍	60~150ℓ/10a	収穫60日前まで	5回以内		5回以内(種子への処理は1回以内)	
		芝	雪腐病	200~400倍	0.5~1ℓ/m ² 0.2~0.25ℓ/m ²		根雪前	3回以内
	80~100倍							
西洋芝 (ペントグラス)	雪腐小粒菌核病	40倍	0.1ℓ/m ²	根雪前	3回以内	5回以内		
シクラメン	葉腐細菌病	10倍	2~5mℓ/株	発病初期	4回以内	葉柄基部散布		
えぞまつ(苗木) とどまつ(苗木)	暗色雪腐病	500倍	1ℓ/m ²	根雪前	2回以内	苗木兼 全面土壌散布	2回以内	

キノドー80/TA09-R08B





⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切る。
- 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤等との混用はさける。
- 本剤は病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので病害の発生の多くならないうちに発生初期から1~2週間おきに予防的に散布する。
- 柿の炭疽病防除に使用する場合、発生の多い時には所定の範囲内の高濃度で散布する。
- ぶどうのべと病に対しては、多発時には効果が不十分な場合もあるので、なるべく発生初期に予防的に散布する。なお、ぶどうでは果実肥大期（あずき粒大）以降の散布は、サビ果や果房の汚れを生じるおそれがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布はさける。
- はくさいの軟腐病、レタスの腐敗病、シクラメンの葉腐細菌病に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前~発病初期に予防的に散布する。
- シクラメンの葉腐細菌病に使用する場合は、薬液による汚れが生じるので葉及び花卉にかからないように注意する。
- 麦類の雪腐病の防除に使用する場合、なるべく根雪近くの晴天の日を選んで10アール当り100~200Lを散布する。
- 小麦の眼紋病の防除に使用する場合、高温時や葉身が軟弱に生育している状態で散布すると、葉身先端部に薬害が生じることがあるので留意する。
- 芝の雪腐病防除には、薬量として平方メートル当り2.5gをなるべく根雪近くの晴天の日に散布する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 水溶性フィルム包装の場合、内袋はぬれた手で触れない。内袋はそのまま所定量の水に投入する。外袋の開封後は使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合には、できるだけ速やかに使い切る。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意



- 誤飲、誤食などのないよう注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
- 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

治療法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。

水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

水溶性包装の場合吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管する。

